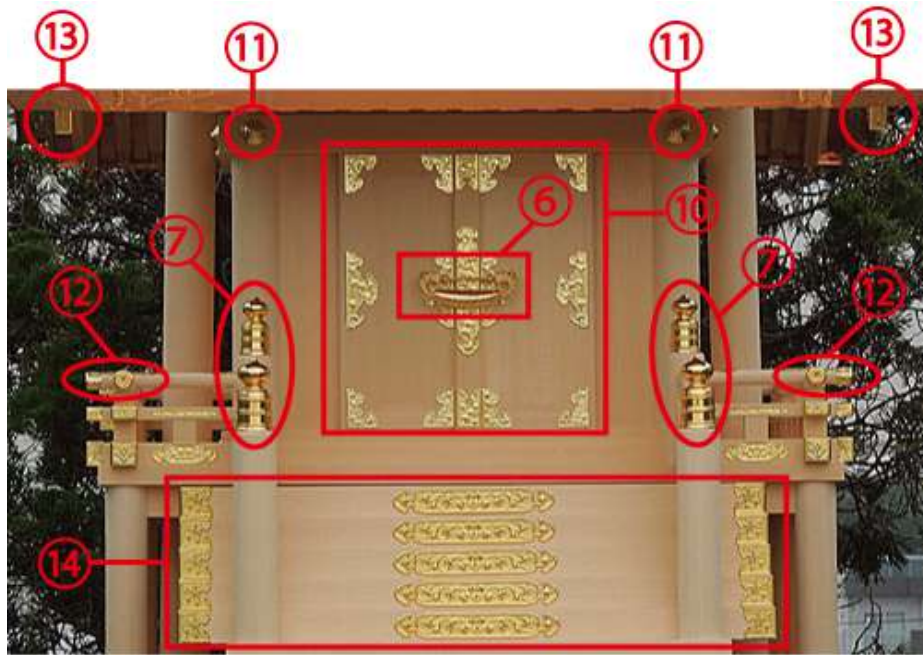
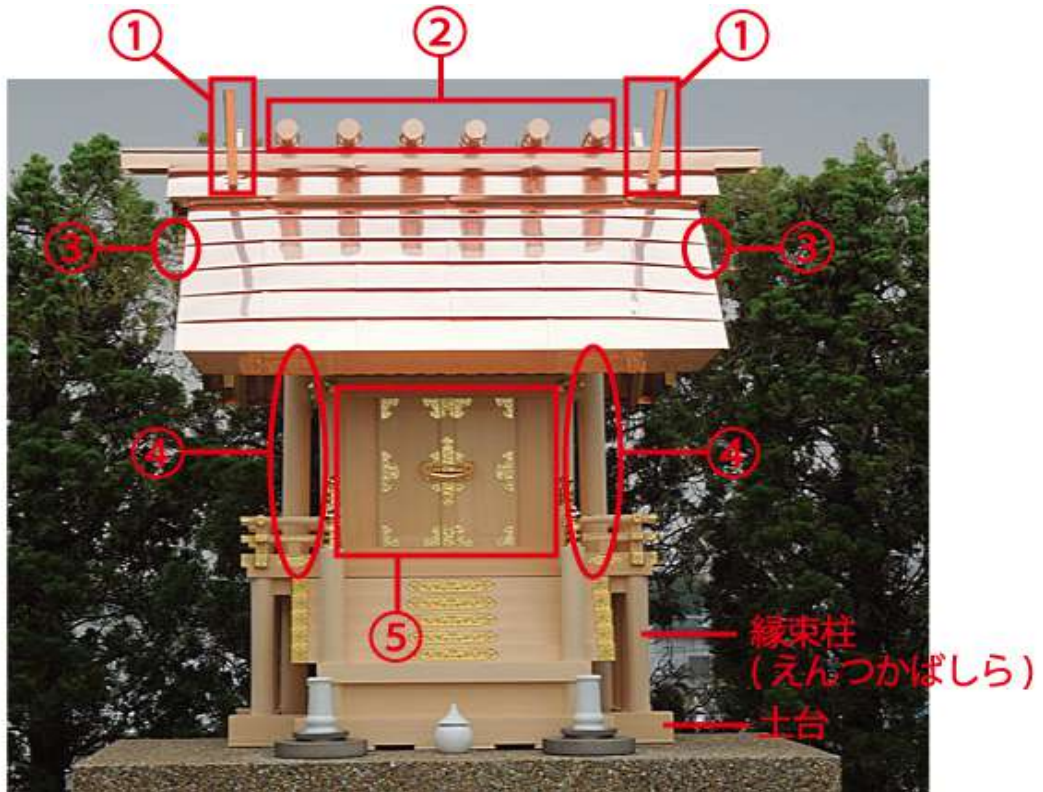


# 神棚の名称の各部名詞

高床式神明造 - 穀物蔵から発達した「神明造り」



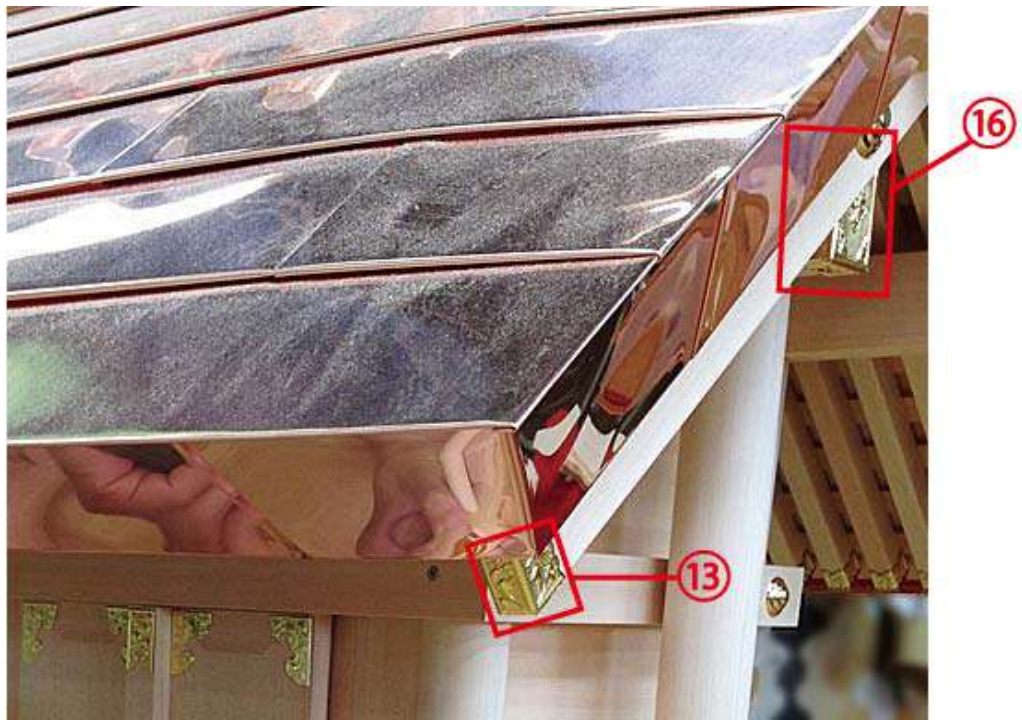
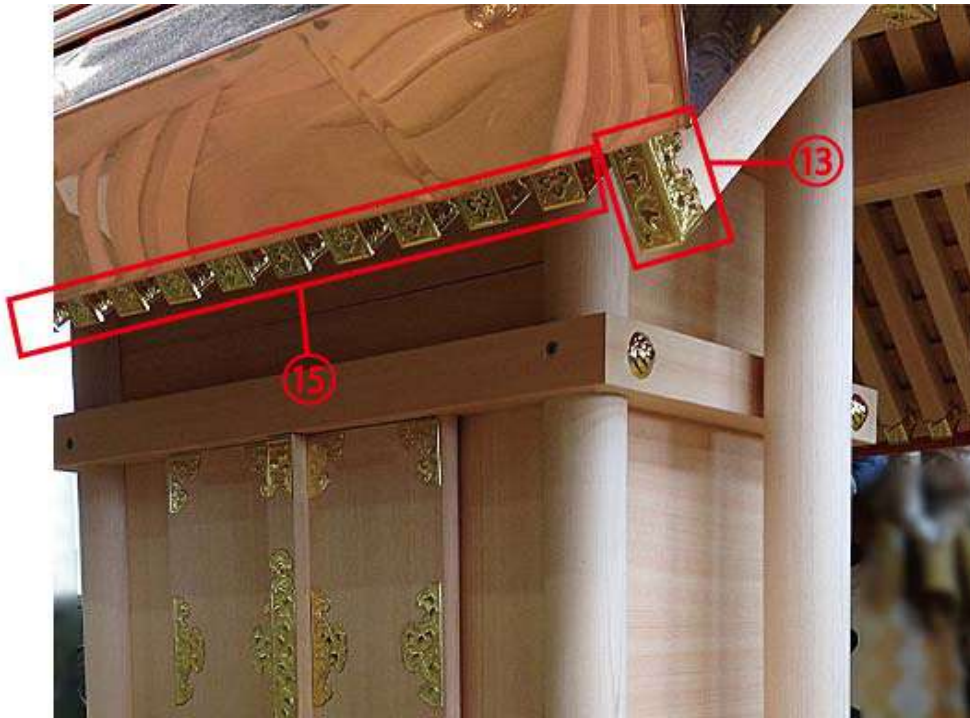
⑧内陣御簾(みす)



⑨内陣戸帳(とちょう)



※写真はイメージ写真です。



番号	名詞	読み	
①	千木	ちぎ	神社建築の屋根の頂き等において、交叉した木。千木の木の切り口は、垂直切りにした「男神」、水平切りにした「女神」に切ることが多いです。
②	鯉魚木	かつおぎ	神社の尊厳を示す象徴として棟上に置くのが一般的です。「男神」は奇数本、「女神」は偶数本の鯉魚木が多いです。
③	鞭懸	むちかけ	破風面から左右8本ずつ突き出した、計16本の細長い木。根元のほうは四角形で尖端は円形です。鞭懸という名称はこれらに鞭を懸けたものであろうということも言われていますが、明確ではないです。
④	棟持柱	むなもちばしら	神明造りで、両妻の側柱外にあつて棟を支える柱です。
⑤	御扉	みとびら	神様のお鎮まりになっている所を「御本殿」、御本殿の扉を「御扉」と言い、祭典の中で開閉します。「御扉」を開くことは「御開帳」、閉じることを「御閉帳」と言います。
⑥	海老錠	えびじょう	海老のように半円形に曲がった形をしているため「海老錠」といいます。御扉に施錠されています。左右両端が龍頭になっています。「海老錠」は日本最古の錠であり、正倉院にも使用しています。錠である「御匙(おさじ)」がなくても力づくでこじ開けることが可能です。古代は防犯という面よりも装飾としての美意識が強かったと考えられています。
⑦	儀宝珠	ぎぼし	伝統的な建築物の装飾で橋や神社寺院の階段・廻縁の高欄の柱の上に設けられている飾りです。ネギの花ににていることから「葱台(ねぎだい)」とも呼びます。儀宝珠が取り付けられるのは親柱であり、「儀宝珠柱(ぎぼしばしら)」と言います。起源は諸説あり、1つは仏教における宝珠からきているとするものです。宝珠は釈迦の骨壺の形とも龍神の頭の中から出てきたという珠のこととも言われ、地蔵菩薩などの仏像が手のひらに乗せたものであると言われています。宝珠を模した形から模擬の宝珠という意味で「儀宝珠」とつけられたものであるとも言われています。もう一つはネギのもつ独特の臭気が魔除けにもなると信じられ、その力にあやかたて使われるようになった説があるそうです。
⑧	内陣御簾	ないじんみす	神社や仏閣などで神様の領域と下界を隔てる結界として用いられます。高貴な場所や祭壇などが1枚の御簾を隔てることで、神聖な場所となります。

⑨	内陣戸帳	ないじんとちょう	帳台の上を覆う布。神仏を安置した厨子(ずし)や龕(ずし)の前などにかける小さなとばり。金欄(きんらん)、緞子(どんす)、綾、綿などで作られます。斗をふせたような形をしているので「戸帳」と言います。
⑩	扉金具	とびらかなぐ	総八双15枚打ち。扉を飾る金具です。
⑪	三重グリ	さんじゅうぐり	長押(なげし)に打たれた金具です。
⑫	高欄金具	こうらんかなぐ	(1)十文字 (2)一文字 (3)木口(こぐち)金具 (4)高欄平桁(こうらんひらけた)
⑬	破風	はふ	破風木口金具
⑭	階段金具	かいだんかなぐ	(1)階段金具 (2)階段木口金具
⑮	垂木	たるき	垂木木口金具
⑯	桁、棟木	けた、むねぎ	桁、棟木木口金具
⑰	内陣	ないじん	御扉の中、御神札や御神宝を祀る場所です。
⑱	内陣厚畳(纏欄縁)	ないじんあつじょう (うんげんへり)	内陣に敷かれた畳です。

※儀宝珠・海老錠・⑩～⑯の金具の総称を**錆(かざり)**と言います。